

## 四十七球目

『榊原純夫のサービスエース』最終回  
私の5つのチャレンジ

榊原純夫

ことができるようになりました。これを基金に積み立て、赤レンガ建物の耐震改修、そして常時公開へと繋げることができました。また、赤レンガ建物とハウジングセンターの2つの施設の相乗効果により、今日も多くの誘客ができています。

12年に渡って連載してまいりました私の所感を綴った「サービスエース」も最終回を迎えました。半田市長としての12年を含む市職員としての46年間、本当にありがとうございました。

今年4月から始まった「第7次半田市総合計画」の中心テーマは「チャレンジ」です。そこで、手前味噌ではありますがありますが、私の46年に渡る公務員生活における、5つのチャレンジを披露させていただきます。

## チャレンジ① ピアゴ半田店を誘致

知多半田駅前にあったユニー半田店は、県内でも有数の売上高を誇る店舗でしたが、老朽化と郊外型大型店舗へのシフトにより閉店となり、取り壊されて更地となりました。そして、跡地には遊興施設やホテルの建設との噂が立ち始めました。当時、商工課（現経済課）の課長補佐であった私は危機感を抱き、すぐに行動しました。知多半田駅の乗降客数調査を行い、調査結果と周辺地域の人口

動態等の資料を抱え、稲沢市にあったユニー本部を訪問し、知多半田駅周辺の現状とユニー半田店に替わる住民の暮らしを支える小売店の必要性を直談判しました。その甲斐あって、店舗床面積は縮小されましたが、数年後、現在のピアゴがオープンしました。

## チャレンジ② 山車まつり機敷席を新たに設置

24年前の平成9年「第4回はんだ山車まつり」の市側の統括責任者として、実行委員会の事務局長と力を合わせて、まつりの成功に向け奮闘しました。彼は会社員の身分を捨て、山車まつりに情熱を燃やす硬骨漢でした。来場者にまつりを存分に楽しんでいただくようと、天候などを懸念する声を抑え、市役所職員駐車場のメイン会場に、機敷席を新たに設けました。結果、お客様に大好評で、以後、山車まつりには欠かせない存在になりました。

## チャレンジ③ たばこ税の増収

半田市に入るたばこ税は、自治体内で売買される紙巻きたばこの本数で税額が決まります。半田市発祥の大手チェーンにグループ全体のたばこを半田市内で一括購入していたければ、大幅な税収増になると考え、先方の社長さんと当時の半田市長によるトップ会談の場を設け、提案しました。その結果、この提案にご協力いただけることになり本市のたばこ税の大幅な増収につながりました。

## チャレンジ④ 赤レンガ建物隣にナゴヤハウジングセンター半田会場誘致

ハウジングセンターは以前、本市の西部にありました。その場所が地権者との契約満了となり、市外への移転準備が進んでいるとの情報をキャッチし、なんとか市内に移転してもらえよう、当時の市長とともに、ハウジングセンターとの交渉に臨みました。その結果、現在の半田年間6,000万円の賃借料を得る

## チャレンジ⑤ 最大の挑戦、半田市長としての12年間

新庁舎建設、新半田病院の建設と建設場所の見直し、半田病院と常滑市民病院の経営統合、JR武豊線の鉄道高架、小中学校を始め公共施設の更新などのハード面から、地域担当職員制度、マイレポはんだの導入など、市民生活に寄り添ったソフト面に至るまで、本当にたくさんの方とを、市民の皆様のご理解とご協力により、成し遂げることができたと思っています。

職員には、これからも市民の皆様へ寄り添い、チャレンジ精神を持って職務にあたることを期待しています。また、市民の皆様には、今後ともよりよいまちづくりに、そして、そのための半田市職員の方々のチャレンジに、ご理解とご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。